

住友金属工業株式会社 2009 年度第 2 四半期決算説明会
(2009 年 10 月 29 日開催) 質疑応答の概要

説明会出席者 専務執行役員 石塚 由成
経理部長 加藤 聖二
広報・I R 部長 増田 信昭
I R グループ長 星 正人

(カンパニー別の収益状況に関して)

Q 1) 前回の 1 Q 決算時の上期見通しと今回の上期実績の差異の要因をカンパニー別に解説して欲しい。

A 1) 鋼板・建材カンパニーは販売数量の増加と低価法戻りの差が主因で好転しました。
鋼管カンパニーは、コスト改善の上積みと 2 Q のシームレスパイプ販売量の増加で好転、住友金属小倉は、低価法適用の影響で悪化となりました。

Q 2) 通期見通しについては？

A 2) 鋼板・建材カンパニーは需要要因による販売数量の増加で好転。
鋼管カンパニーは、今回下期の販売見通しを修正した事による悪化となります。

Q 3) 鋼管カンパニーの悪化要因についてもう少し詳しく。

A 3) スラブを除いた鋼管事業の営業利益については、1 Q は 80 億円程度、2 Q は 50 億円程度、下期は 10 億円程度と見込んでいます。下期に損益が悪化する要因は、収益への寄与が大きいスーパーハイエンド品の内、高合金 OCTG の出荷が LC 開設遅延の影響から減少することが大きな要因です。

(販売数量の回復傾向に関して)

Q 4) 09 年度下期の鋼板・建材の販売量は、08 年度上期を超える見通しであるが、シェアも上がるのか？

A 4) 当社の薄板の販売構成は、自動車向けが約 6 割となっており、自動車産業の需要回復基調に対応した販売量の増加を見込んでおります。販売構成の違いを除き、状況については、他社と大きな差異は無いと思われれます。

Q 5) 09 年度下期の国内向けスラブの販売量見通しは、契約通りか？

A 5) 契約通りの販売を見込んでおります。

Q 6) 鋼材販売量は、08年度1Qを100とすると、09年度下期には103の水準まで回復するという見通しであるが、生産量についてはどのような回復を見込んでいるか?

A 6) 上期は、下工程を減産したため、社内在庫が増加しました。下期は、この社内在庫を圧縮して平常に戻すため、上工程の増産は販売量ほどの増加ではありません。

高炉の出銑比については、和歌山製鉄所の第4高炉の吹き止めおよび新第1高炉の立ち上げによって生産量が減少した今年度上期は1.54でしたが、下期平均では全社で1.8強、鹿島および和歌山製鉄所については1.9程度を見込んでおります。

Q 7) 4Qの製品別の需給環境は?

A 7) 自動車向けの薄板については堅調のまま推移すると予想しています。自動車向けが多い特殊鋼についても同様です。一方、建材用途については、依然低調が見ています。

Q 8) 4Qの販売価格について、何か特殊要因を織込んでいるか?

A 8) 3Qに対し、何か特別の事情を織込んでいるということはありません。

(鋼管事業に関して)

Q 9) シームレスパイプの需給状況と今後のマーケット展望は?

A 9) 販売価格の見通しについては、前回の決算時から大きな変化はありません。販売数量については、09年度の販売量見通しを80万トン程度としています。

製品別の需給状況については、OCTGについては、前回の説明会時に、中東等の顧客による買い控えについてお話ししましたが、この買い控え傾向は収束してきました。需要の底は打ったと判断しています。

回復のスピードに関しては、世界のエネルギー需要はまだ低レベルであり、米国天然ガス価格も低調です。グローバル指標である米国OCTGの在庫もまだかなり多い状況であることもあり、当社の販売数量についても、緩やかな回復を見込んでいます。

ラインパイプについては、店売り在庫の調整も進捗し、プロジェクトも活発化してきております。

ボイラチューブについては、石炭火力発電プロジェクトの遅延が継続していません。

原子力発電向けのSG管はフル生産が継続、国内の自動車・建機向けメカニカル鋼管も在庫調整が終了し、今後は増加が見込まれます。

Q10) 来年度のシームレスパイプの販売量は90～100万トン程度を見込めるか?

A10) シームレスパイプは回復傾向を続けると見込んでいますが、具体的な数量の予想を申し上げるのは少し時期が早いと思います。ボイラチューブについては、他の製品に対して回復には、やや時間が必要と見ています。

Q11) 鋼管事業の販売価格のボトムはいつ頃とみているのか?

A11) 鋼管事業は、薄板等の他製品に比べて、受注から出荷のリードタイムが長いのが特徴です。市況が一番悪化していた今年の3～5月頃に受注したスポット案件の出荷が今下期となることもあり、3Qが販売価格のボトムとなると予想しています。

Q12) 鋼管事業のうち、マーケットが回復してきている大径管の状況は?

A12) 大径管の販売量については、上期実績は8万トンと低調でしたが、下期は上期の倍程度の販売を見込んでおります。

以上